

日本分子生物学会年会における発表者の属性統計

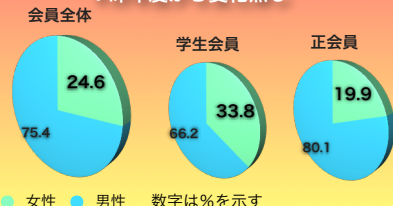
～年会における女性のactivity向上を目指して～

**”学会のシンポジウムでの発表者やオーガナイザーの女性の比率は
学会員全体における比率と比べて低いのではないだろうか？”**

日本分子生物学会男女共同参画委員会はこのような疑問をもち、2009年度から年会発表者の演題カテゴリーごとの属性調査を行っています。今年度は日本生化学会との合同大会（BMB2010）における結果をまとめ、比較しました。

会員の男女比（2010年8月31日現在）

＊昨年度から変化無し



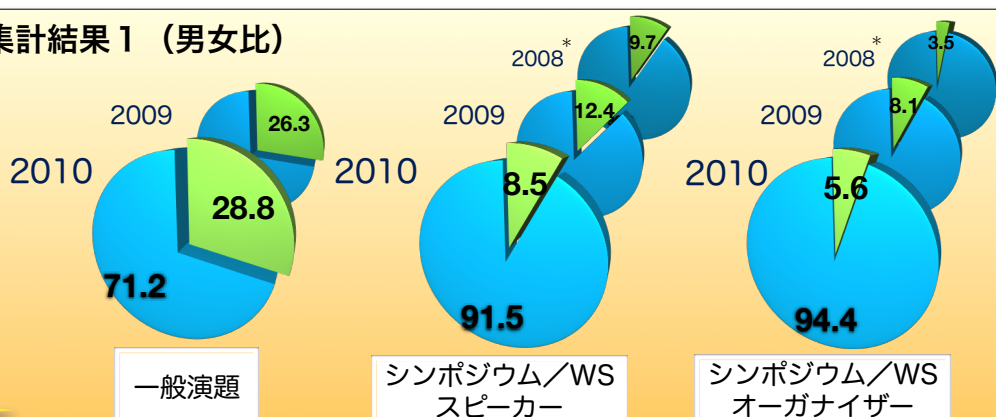
演題登録者数

一般演題（日本語）：5062名（生化学会33.4%、分子生物学会58.5%、両学会8.1%）
ワークショップ（WS）、シンポジウム：616名（WS 503名、シンポジウム 113名）

回答率

一般演題 : 96.4%
WS : 89.0%
シンポジウム : 93.8%

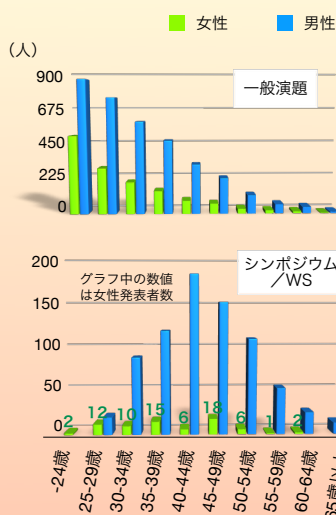
集計結果1（男女比）



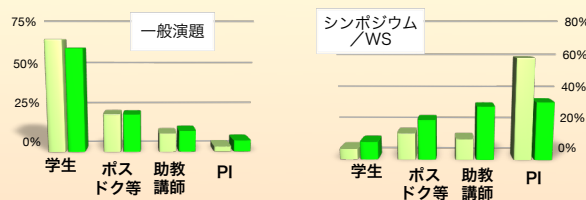
昨年までの結果と大きな違いはなく、学会員全体と一般演題発表者の男女比は同等である一方、シンポジウム/WSのオーガナイザーやスピーカーは女性の割合が低く、正会員の女性率（19.9%）と比較してもその半分に満たなかった。

集計結果2（年齢層、職階分布）

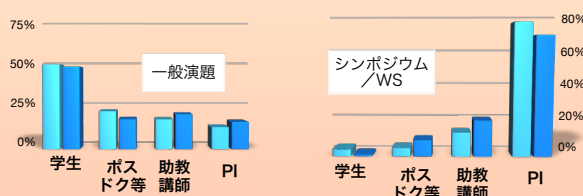
年齢層ごとの人数



女性発表者の職階分布



男性発表者の職階分布



一般演題発表者の年齢層、職階分布は男女ともに同様の傾向を示した。

一方、シンポジウム/WSのスピーカーの職階分布は、男性はPIが圧倒的に多いのに対し、女性はポスドクからPIまでほぼ均等に分布しており、より若い世代にチャンスが与えられている傾向が伺えた。

まとめ

今後、オーガナイザーの回答率（今回約7割）の向上を図るための改善を含め、運用が容易で継続可能な属性調査プロトコルを確立し、経年的変化を評価するために調査を続行する。また、他学会にも同様の属性調査の実施を提案したい。